

# アカシアの大連

## ～中国・大連日本人学校に赴任して～

前 大連日本人学校

現 札幌市立もみじ台小学校 白川 典洋

### 1 はじめに

～かつての日本の植民地の中でおそらく最も美しい都会であったにちがいない大連を、もう一度見たいかと尋ねられたら、彼は長い間ためらったあとで、首を静かに横に振るだろう。見たくないのではない。見るのが不安なのである。もしもう一度、あの懐かしい通りの中に立ったら、おろおろして歩くことさえできなくなるのではないかと、密かに自分を怖れるのだ。～

芥川賞受賞作家・清岡卓行氏の「アカシアの大連」の書き出しである。私は、大連日本人学校への赴任が決まったとき、まず初めにこの書に目を通した。かつて日露戦争においてその戦場となった旅順については多少の知識はあったものの、「大連とはいったいどこ？」と全く知るすべもなかったからである。「美しい港町、アカシア香る大連」といった言葉に目を魅かれ、少しずつ大連についての情報を仕入れ、赴任に備えた。

### 2 現地の様子

#### (1) 大連の歴史

1898年にロシアが遼東半島を租借し、ロシア語の「遙か遠い地」の意味の「ダーリニ」と名付けたのが、地名の始まりである。1905年に日露戦争に戦勝した日本が占領、ロシア語の音から、「大連」の漢字をあてて命名された。中国の人にとって屈辱的な日本統治は1945年までの40年間にも及んだ。

日本が無条件降伏した1945年、今度はロシア軍が駐留し、10年間のロシア統治が続いた。解放後、大連市は旅順市と合併して「旅大市」に改称。さらに1981年、大連市として現在の

姿となった。現在は瓦房店市、普蘭店市、庄河市の“北3市”と、長海県の1県、中山区、西岗区、沙河口区、甘井子区、旅順口区、金州区および経済技術開発区の7区を直轄する広域市を形成している。



【大連の町並み】

#### (2) 大連の地理と気候

遼東半島の最南端にあり、北緯38度、東経121度に位置する。緯度的には山形県や宮城県と同じである。日本との時間差はマイナス1時間。

三方を黄海や渤海などの海に囲まれているため海洋性の特徴をもった大陸性モンスーン気候で、四季がはっきりしている。北海道と似た気候であると感じる。春や秋は深い霧に包まれることが多い。雨が極端に少なく非常に乾燥した気候であり、いつも街全体が埃っぽく感じられる。冬、雪はほとんど降らない。しかし、一度降ると道路はすぐ凍りついてしまうので、車は走れない状態になってしまう。海からの乾燥した強風が吹くことが多いため、体感温度は北海道より低いかもしれない。気温は朝夕でマイナス10℃前後、日中で0℃

前後という日が続く。中国国内においては、「夏は涼しく、冬は暖かい大連」のようである。



### (3) 文化・風土

大連市の人口は、2007 年末の統計では約 600 万人で、人口密度は 460 人/km<sup>2</sup>。約 45% が農業人口といわれている。民族数は 46。(中国全体では大多数の漢民族と 55 の少数民族が存在するといわれる) 漢民族が全体の 95% を占めており、その他に朝鮮族、満州族、回族、シボ族、モンゴル族などの少数民族が住んでいる。

中国は、社会主義体制を保ちながらも資本主義経済原理を採用し、時代の大きなうねりの中で世界にも多大なる影響をもつに至っている。その中であって、経済技術開発区として外資系企業の進出や自由市場の活況著しい大連の日々の変化には目を見張るものがある。ビルなどは新築・改装ラッシュが続き、



【新築された高層マンション群】

数日目にしなかつただけで街の景観が変わってしまうこともしばしばである。

一方、人々は状況や環境の変化に対して、旧態依然として「大陸的」といわれるものがある。街の往来は、車も歩行者も信号は関係なしに我が物顔である。(元来、大連は日本に比べ信号が非常に少ない) 赴任当初、歩行者として道路を横断するのに、かなりの勇気が必要だった。交差点では、車の罅迫り合いが原因で交通渋滞が頻繁に起こっている。

### (4) 政治と経済・産業

大連市は遼寧省の直轄都市である。1984 年、日本でいう政令指定都市に批准された。大連市は、先にも述べた 7 区、3 市、1 県から成っている。「大連人民政府」(市役所にあたる) が大連の行政を担当しているが、7 区、3 市、1 県にもそれぞれ区政府、市政府、県政府があり、それぞれに地区の行政を行っている。



【大連人民政府】

中国は一党独裁であり、中国共産党が国家を指導している。大連市の場合、中国共産党大連市委員会がそれに当たり、書記を筆頭に大連市の政治のかじ取りを行っている。大連市書記は、遼寧省副書記を兼任している。また、各区、市、県にそれぞれ委員会を、各企業や機関には支部を設置して党の政策を宣伝・指導している。

大連市は、全国に 14 か所指定されている沿

海開放都市の一つで、海外から多くの投資が導入され（外資系企業約1万社：2005年末調べ）、中国東北部の工業、商業、貿易等の中心となっている。特に大連港は、日本をはじめ世界140余りの国家地区と海運航路を結んでいる。

大連に進出している日系企業は2006年末現在で3184社となっている。日本を含めた外資系企業は、大連市の産業の大きな部分を担っており、特に日系企業は重要なウエートを占めている。日本との経済的な関係は深く、大連市の貿易は、輸出入とも日本が最大の相手国となっている。

また、日本との姉妹都市提携も盛んで、北九州市、舞鶴市、七尾市、玉名市、天童市等と交流が行われており、県人会組織なども存在する。2007年10月現在、大連に長期駐在の日本人は4123人で、日本からの旅行者は41万人にもなるという。

(5) 中国の教育事情

中国の学校では日本とは異なり9月から7月までが一年とされ、1995年より週休二日制が実施されるようになった。その教育制度は初等教育、中等教育、高等教育に分けられて

おり、そのうち義務教育となっているのは初等教育および中等教育のうちの初級中学段階までで、6歳からの9年間となっている。義務教育の開始年数については、条件の整わないところにおいては、7歳から開始してもよいとされている。それぞれの修業年数は基本的には日本と同じ6年-3年制であるが、農村部では5年-4年制の例もみられ、現在は初級中学での教育にゆとりをもたせるため全国的に5年-4年制へ移行の方向にある。

学齢期児童の入学率は1998年の統計では98.93%となっている。児童が入学する際には、居住する学区により入学する学校が決められる。教育課程の基準については、国（教育部）が定め、この基準に基づき各省・自治区・直轄市がそれぞれの地域について基準を作成している。現在の履修科目は、言語・文学、数学、自然、思想品德（道徳）、体育、音楽であり、大連日本人学校と交流のあった現地校では、小学1年生から英語（一部日本語を学習する学級も）の授業が行われていた。

現地校を訪問して驚くのは、学級の人数の多いことである。平均して一学級45人ほど。最大で53名の学級もあった。それは、この学校が「旧重点校」に属する名門校であるとい

【交流のあった現地校の2年生（左）と4年生（右）の時間割】

	月	火	水	木	金
1	写/英	语文	写/英	写/英	美术
2	语文	写/英	语文	数学	体育
3	数学	英语	数学	生活	语文
4	班会	唱歌	信息	语文	写/英
午饭・午休					
5	唱歌	语文	说话	唱歌	数学
6	体育	读报	小体锻	常识	
7	体锻	美术	写字		

	月	火	水	木	金
1	校班会	英语	数学	语文	语文
2	语文	数学	语文	社会	数学
3	数学	音乐	英语	生活	体育
4	英语	自然常识	体育	英语	英语
午饭・午休					
5	兴趣	语文	活动	自然常识	音乐
6	写字	体育锻炼	社会	数学	作文
7	体锻	美术	研究	体育锻炼	

う理由による。中国では、学校の種類として、一般校、実験校、附属校、一貫校が存在する。この他に、かつては「重点校」と呼ばれる学校が存在した。現在では「重点校」と「普通校」に区分することは禁止されているらしいが、旧重点校においては名門校としての地位を維持するために、入学試験を実施するなどして学区外から優秀な子どもを募集しているという実態があり、また富裕者層においては、子どもを教育水準が高い学校に入学させたいという思いから、多額の費用を負担し子どもを越境入学させているという現実がある。その結果、旧重点校に子どもが殺到するのである。そのため、学校間の格差が一層広がっているらしい。

- ◇1 コマは 40 分。授業間の休みは 10 分。日本のような中休み（業間休み）は取っていない。
- ◇写/英：20 分は字を書く授業。残りは英語の授業。
- ◇美術：図工にあたる。主に絵画の授業。

現在中国では、中央政府主導の下、素質教育の推進が進められており、地方政府、例えば北京市教育委員会では、現在「德育」を重視した取組みを進めているが、中国は日本を上回る学歴社会であり、厳しい大学入試が存在するため、全国の家や学校現場に完全に浸透しているとは言い難いのが現状のようである。その結果、多くの小・中学生が毎日の宿題に追われている現実があり、また自己判断力や発想力の欠如、宿題が多いことによる睡眠不足、また遊び方を知らない子ども、近視の子ども、肥満児の増加、また親の過度な期待により心理的問題を抱える子どもの増加など、子どもをめぐる問題として多くのことが指摘されている。

それにしても、中国の子どもたちは小学生からよく勉強する。午前 8 時半から始まる授業の前に、早い子は午前 7 時頃から登校して

自習を始める。そして、午前中 4 時間、午後 3 時間（学年・曜日によって異なる）の授業。放課後は午後 7 時頃までまた自習という日課である。戸籍登録上の人口 15 億といわれる中国において、いわゆるエリートはその中の本当に極一部であるわけだから、その競争の厳しさが窺い知れるところである。

### 3 大連日本人学校について

#### (1) 学校の概要

学校名は大連日本人学校（The Japanese School of Dalian）で、設立年月日は平成 6 年 4 月 1 日という比較的歴史の浅い学校である。設立者は大連日本商工会、運営主体は大連日本人学校理事会となっている。現地では、遼寧省教育委員会の同意を得た学校という位置づけである。



【人工芝化されたグラウンド：2007 年 8 月】

旧中国民航という航空会社が保有する民航療養院の敷地内にあり、その施設の一部を間

借りしている。学校用として建てられたものではないため、教室や音楽室の音の響きが気になったり、手狭な部分があったり難点も少なからずあったが、教室床のフローリング工事、各教室のエアコン設置、理科室の改装、図書館の新設、グラウンドの人工芝化等々、年々改良工事が進み、着々と整備が進められてきた。

## (2) 学校教育目標、経営方針等について

### 【学校教育目標】

「力あふれる 心豊かな  
世界に生きる 子どもの育成」

#### ◇めざす子ども像

##### ①心豊かな子

- ・国際的な広い視野に立ち、自他を尊重し、仲良く協力しあう心豊かな子ども

##### ②よく考える子

- ・自分の考えをもって意欲的に学習に取り組む子ども

##### ③たくましい子

- ・たくましい身体と強い意志をもち、心身ともに健やかな子ども

### 【経営の方針】 ※抜粋

#### (3) 教育課程の工夫・改善

①授業日数・時数の確保と教育課程の適切な運用に努める。

②日本人学校の特性を生かした教育課程を編成し、計画・実践・評価のサイクルを大切にしながら、各計画の見直しと改善に努めるとともに各教育活動の活性化を図る。

#### (4) 学習指導の充実

①個に応じた指導に努め、自ら学び、自ら考え、主体的に判断、行動し、より良く問題を解決する資質・能力の育成をし、確かな学力の定着を図る。

②国際社会において相手の立場を尊重しつつ、自分の考えや意思を的確に表現

できる能力（国語・中国語英語）を育成する。

#### (5) 人間尊重を第一とする「心の教育」の充実

##### ①豊かな心を育む「心の教育」の充実

ア 命を慈しみ、人間尊重を旨として全教育活動に当たる。

イ 国際的な広い視野に立った国際理解教育を推進する。

##### ②児童生徒指導の充実

ア 子どもと教師、子ども同士の間関係の充実を図るとともに、組織的、計画的な教育相談体制・校内指導体制の一層の充実を図る。

イ 子どもに関わる危機管理体制の整備を図り、健康で安全な学校生活を送れるように努める。

#### (6) 危機管理の徹底

①危機管理体制の見直しを図り、安全管理・危機管理の徹底を図る。

②不審者対策等学校安全管理の徹底、警備の強化を維持する。

#### (7) 保護者および日本人社会、現地地域社会、関係諸機関との連携

①現地地域社会や関係諸団体との連携を深め、教育活動の充実、教育環境の充実・向上を図る。

#### (3) 特色ある教育活動

授業時数については、次頁の表のようになっている。特色ある教育活動として、小学部の英語学習、小学部から中学部までの中国語学習がある。英語は、日本人英語教師と ALT によるティーム・ティーチング、中国語については中国人講師と学級担任によるティーム・ティーチングで授業が行われている。

その他、「私たちの暮らす街・大連」を共通テーマに、子どもたちの発達段階、興味・関心によりそれぞれの学年のテーマを決定し実践する小学部 3 年生以上の総合的な学習の時間、学校行事の中でも特に「現地理解行事」

【平成 19 年度 週授業時数】

学部	学年	各教科										道徳	特別活動		総合的な学習	中国語	英語	計
		国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図工	家庭	体育	学級活動		クラブ					
小学部	1	8		4		3	2	2		3	1	1			1	1	26	
	2	8		5		3	2	2		3	1	1			1	1	27	
	3	6.5	2	4.5	2		2	2		3	1	1		3	1	1	29	
	4	6.5	2.5	4.5	2.5		2	1.5		3	1	1	1	2.5	1	1	30	
	5	5	3	4.5	3		1.5	1.5	1.5	3	1	1	1	2	1	1	30	
	6	5	3	4.5	3		1.5	1.5	1.5	3	1	1	1	2	1	1	30	
学部	学年	各教科										道徳	特別活動		総合的な学習	中国語	計	
		国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術家庭	英語	選択		学級活動	クラブ				
中学部	1	4	3	3	3	1.5	1.5	3	2	4	1	1	1	1	2	1	32	
	2	4	3	4	3	1	1	3	2	4	1	1	1	1	2	1	32	
	3	4	3.5	4	3.5	1	1	3	1	4	1	1	1	1	2	1	32	

\*上記表以外に委員会活動を月に1単位時間（金曜日の7校時）実施する。

\*中学部はこの表以外に裁量の時間を週に2時間位置づける。

として位置付けていた芸術鑑賞会，現地校との交流会，学校で働くスタッフを紹介する会・感謝する会などがあげられる。

指導体制については，小学部においても音楽，図工，家庭で教科担任制をとっている。その他，教員の専門性を生かし，高学年社会科・理科等で教科担任制を取り入れていた。また，低学年体育においては，子どもたちの安全確保とより充実した学習をめざし，チーム・ティーチングによる授業を行っていた。

#### 4 大連日本人学校での実践

##### (1) 現地校との交流

平成7年度より小学部は現地校・桃源小学校との交流会を行っている。平成18年度から，年3回の機会を設定。1回目は6月に桃源小学校が日本人学校を訪れ，2回目は9月に行われる日本人学校の運動会に桃源小学校の子ども

たちを招いて，3回目は12月に日本人学校が桃源小学校を訪問して交流会を行った。平成19年度は，日本人学校の6年生が桃源小学校の運動会に参加（当初は全校で参加する予定だったが，雨天による延期，先方の日程調整および開催都合上の事情で6年生のみの参加になった）することができ，年4回の機会を設けることができた。

##### 【桃源小学校との交流会のねらい】

- ◇現地校の子どもたちとの交流を通して，お互いのことを知り，尊重し合いながら，主体的にコミュニケーションを図ろうとする意欲を育てる。
- ◇言葉や習慣の異なる子どもたちとの交流を通して，自分たちとの違いやそれぞれのよさを認め合い，理解し合おうとする態度を育てる。

6月と12月は、各学年の授業に参加して交流を進める。6月に桃源小学校の子どもたちが日本人学校を訪れる時には、授業の中で中国語も必要になる場面があり、教員にとっては指示伝達のための工夫が大いに必要になる。特に派遣1年目の時は、まだ挨拶くらいの会話しか成立しない時期であるため、大きなプレッシャーがあったことを記憶している。

授業の前に、子どもたちはそれまでの中国語の学習の成果を生かして、中国語で自己紹介をしたり、中国語で書いた名刺の受け渡しをしたりして交流を図る。その後、それぞれの学年で、授業を通して交流を深める。日本人学校で交流を行う際には、1、2年生は生活科、3年生以上では体育や総合的な学習の時間で授業を計画した。



【バスで日本人学校を訪れた桃源小の子ども】



【1年生の折り紙遊びを通じた交流】

【平成19年度：日本人学校での交流会授業計画】

学年	活動名	教科・領域	場所	主な内容
小1	折り紙で遊ぼう	生活	小1教室	折り紙遊び
小2	なかよくなろう	生活	講堂	歌遊び、ゲーム
小3	友達いっぱいゲーム	総合	小3教室	歌披露、ゲーム
小4	Let's enjoy Music	総合	音楽室	中国語の歌披露、ゲーム
小5	Let's enjoy Sports	体育	グラウンド	サッカー、ドッジボール ※雨天時は体育館でドッジボール
小6	話して！動いて！ 中日友好を深めよう	体育	体育館	鬼ごっこ、ドッジボール

【平成19年度：桃源小学校での交流会授業計画】

	男	女	計	交流授業（教科・クラス・場所）
1年生	5	5	10	数学：1年4班
	5	6	11	生活：1年6班
2年1組	7	9	16	外教：2年3班
2年2組	8	8	16	音楽：2年7班
3年生	4	4	8	美術：3年1班
	5	4	9	语文：3年4班
4年生	4	9	13	計算機：4年1班
	5	9	14	社会：4年4班
5年生	6	5	11	英語：5年1班
	6	5	11	美術：5年6班
6年生	7	14	21	体育：6年5班
計	62	78	140	

\*日本人学校の人数割り。より少人数で交流できるようにと計画してくれた。

交流会を計画し、桃源小学校との打ち合わせで考慮しなければならないのは、参加する子どもの人数調整である。日本人学校は1学年20～30名。これに対し、桃源小学校は300～350名である。日本人学校を訪問してもらう際には、校舎のスペースの問題もあり、こちらの子どもと同数だと依頼することになる。桃源小学校によると、交流会に参加を希望する子どもが多く、人選するのが大変だということだった。

9月末、日本人学校の運動会では、競技を通して交流を深めた。平成19年度の競技名は「友好の懸け橋」。学年毎に中日混合チームを作り、また学年毎に異なる種目に取り組み、最後の6年生リレーにバトンをつなぐという内容である。5年生以下の種目については、簡単に取り組むことができ、楽しい内容のものということで考え、桃源小学校に伝えたところ、競技の練習日程に合わせて桃源小学校の先生方が二度来校し、その様子をビデオに収めていった。「競技の様子を子どもたちに見せ、練習して当日に臨みます。」とのことだった。桃源小学校の交流会に臨む意気込みが年々確実に高まっていると感じた。



【交流種目「友好の懸け橋」】

## (2) 修学旅行

修学旅行は、小学部6年生と中学部2年生が合同で実施している。平成17年度までは、2年毎瀋陽と北京で行っていたが、平成20年度からは瀋陽を西安に変更して行うことにな

っている。

### 【平成19年度修学旅行のねらい】

- ◇北京の歴史・文化的な史跡や政治上の大切な役割を果たす建造物などを実際に見学することにより、中国についての理解を深め、自国・他国の文化を尊重する態度を育てる。
- ◇北京日本人学校を訪問し、自分たちと同じように海外で生活する仲間と交流することで、今後の中日友好と国際交流について考えていくための素地を培う。
- ◇異年齢集団での宿泊を伴う活動を通して、互いに思いやり尊重し合う心と、集団の一員として節度をもって行動する態度を育てる。

平成19年度は、6月6日から8日まで2泊3日の予定で、ねらいにもあるように北京で実施した。参加児童生徒は、小学部6年生21名、中学部2年生14名、計35名。海外において行事を実施する際に何よりも気を配らなければならないのが、子どもたちの安全。綿密な計画はもちろんのこと、現地下見を2度にわたって行い、本番を迎えた。実施中の配慮事項としては、

- ①飛行機での移動のため、フライト時間の変更が心配される。  
⇒大連からスルーガイド(日本人)1名をつける。
- ②パスポートは全員持参する。  
⇒引率者が一括して管理する。
- ③班毎の活動の際には、グループ数のガイドをつけるようにする。  
⇒王府井でのグループ行動の際に、3名のガイドを補充する。
- ④1日3回(朝出発時、昼前後、ホテル到着時)は学校と連絡をとる。  
が挙げられる。緊急時のための大使館との連絡体制も大切な要素であった。

子どもたちの事前・事後の学習は総合的な

学習の時間に位置づけ、それぞれの学年での取り組みの他に、合同学習会も事前に 5 度、事後に 1 度行った。

### 【修学旅行日程の概略】

#### 〈第 1 日〉

06:30 大連空港集合  
08:00 大連空港 発(CZ6125)  
09:10 北京空港 着  
09:45 北京空港 発  
10:45 八達嶺長城 着  
14:30 少林武術学校

(武術鑑賞・体験)

\*オリンピックスタジアム(車窓見学)

#### 〈第 2 日〉

08:45 天安門広場  
09:15 故宮博物院見学  
11:15 王府井周辺の班別行動  
(昼食時間を含む)  
13:45 胡同巡り、鼓楼見学  
16:00 天壇公園見学

#### 〈第 3 日〉

09:15 盧溝橋, 中国人民抗日戦争記念館  
13:30 北京日本人学校訪問  
15:30 北京空港 着  
17:25 北京空港 発(CZ6134)  
18:30 大連空港 着  
18:30 空港にて解散

修学旅行を終えて、子どもたちの記録を見ると、最も印象的で思い出に残ったことは、北京日本人学校との交流、次に中国人民抗日戦争記念館見学だった。中国・北京の名所・旧跡をこれだけ見学したのだから、万里の長城を友達と登ったこと、故宮や天壇公園へ行ったこと、王府井での班別行動などであろうと考えていた。

中国人民抗日戦争記念館見学については、日本で学習するのとはまた違った角度から中国と日本の関係を学ぶことができたのがその理由であろうと考えられる。小学部 6 年生は、その後の旅順平和学習でも歴史的事実を知り



【天安門広場にて】



【北京日本人学校との交流】

学習を深め、自分たちの考えや思いを学習発表会で伝えた。

北京日本人学校との交流については、日本を離れ、同じ中国という海外で生活する仲間とのふれ合いに多くのことを感じる時間であったからであろう。子どもたちにとって、この修学旅行が有意義な学習であったことは間違いない。

### (3) 2 年生 生活科校外学習

#### 「大連市内を見学しよう」

赴任 1 年目の 2 年生担任の時、“探検・発見”の単元で計画し、行った実践である。日本で行う以上に子どもたちの安全確保には十分に配慮した計画が必要であり、そのための現地見を数度にわたって行い、立案した。その計画については、小学部会で提案・検討し、その後校内の決裁を受け承認される。

### 【校外学習のねらい】

◇グループで協力しながら、自分たちで立てた計画に基づいて町を探検し、施設や人々、自然などとかかわりを持ち、町探検を楽しむことができる。

◇町探検で見つけたことや気付いたことを好きな方法でまとめ、成果を交流しながら町や人々への愛着を確かめたり、深めたりすることができる。

### 【校外学習の概要】

- ・大連マイカル<sup>®</sup>本店（店内見学，買い物）
- ・労働公園（昼食）

大連マイカル<sup>®</sup>本店は、元は日系のショッピング・センターであったが、現在は経営に關するアドバイザーとして日本人が常駐する中国大連商場集團傘下となっている。生活用品や食料品のコーナーには、日本の商品も数多く並んでいるが、価格は日本の3倍以上であり、いわゆる高級店に属する。その分、セキュリティ面も整備されており、安心して買い物ができる場所の一つである。

グループで店内を見学し、その様子を観察したり、お店の人とふれ合ったりすること、自分で立てた計画にしたがって買い物をすることを学習の柱とした。大連においては、子どもたちだけで現地の商店で買い物をする機会はまずない。20元（当時で約260円）のお金で、文房具を購入する計画を立てた。中国においては、スーパーマーケットの食料品売場等のレジは日本と同じシステムだが、その他においては、

- ①売場で商品購入証を受け取る。
- ②それを持って「收银机」という所に行き、お金を払い、支払証明書もらう。
- ③支払証明書を持って売り場に戻り、商品を受け取る。

というシステムが中心となる。実際にそんな



【マイカルで買い物をする子どもたち】

## 5 終わりに

今思うと本当にあつという間の3年間だった。緊張のうちに過ぎた赴任1年目。新派遣教員に伝え、3年目教員を支える重要な時であり、1年目の経験を生かして、より確かな教育活動を要求された2年目。そして、先輩方が築き上げた伝統を守り、改善すべきところは改善し、次へ確実につなげることに必死に取り組んだ派遣最終年。実に多くのことを改めて学ぶことができた。

その1:日本人は自分で車を運転することができないため、公寓（住居）のタクシーで決まった時間の通勤であったこと、また、脱北者対策等安全上の理由から、保安（警備員）がいる時間でなければ校内に入ることはできないことから、勤務時間は限られていた。したがって、仕事の大半は自宅でのものとなるが、限られた時間をより有効に使い、スピーディーかつ確実に校務をこなすよう努めた。

その2:日本全校各地から集まった教員集團。めざすところは同じでも、その教育観は多少異なるものがある。大切なことは協調性であることを改めて理解した。

その3:当たり前前を当たり前前実践すること。何をすることもまずは子供たちの安全確保。報告・連絡・相談・調整の重要性を再認識した。

ここではまだまだ語り尽くせないものがある。いつの日かまた、在外で学ぶ子どもたちとの再会を夢見て…。